

最高の音、最高の味、最高の美を感じる修学旅行

今年の修学旅行は、2度にわたる目的地の変更を余儀なくされました。最終的には2日間に分けて、岐阜市と犬山・各務原への日帰り旅行としました。岐阜市への旅行では、「生涯忘れることのない最高の体験」ができるように、サラマンカホールでの音楽会、岐阜グランドホテルでのランチ、岐阜県美術館での作品鑑賞を企画しました。

県内最高の音質を誇るサラマンカホールでは、児童による実行委員が中心となり一ヶ月間に渡って取り組んできた「いきいき富小音楽会」を開催しました。国の音楽会運営基準に沿って施設管理者から直接に指導を受け、万全なコロナ対策で臨みました。音楽会の進行は、すべて実行委員会が務めました。発表だけでなく、聞くことも音楽会での学びです。クラス発表を各一曲、学年合唱を二曲の発表です。子どもたちは、仲間と約束したマナーを守ることはもちろんのこと、最高の音楽堂にふさわしい凜とした緊張感をつくり、堂々とした姿で精一杯の歌声を響かせました。練習を超える声量とハーモニーを生み出すことができたのは、会場の素晴らしさに加え、自分を乗り越えて全力を出しきれたからでしょう。参観された保護者の皆さんの温かい拍手に包まれ、最高の場で最高の音楽会の幕を閉じることができました。



昼食は、ホテルでのテーブルマナーの学習です。慣れないナイフとフォークに戸惑いながらも、メインディッシュに舌鼓を打つ姿が見られました。ホテルのマネージャーさんから説明をいただき、場に合った振る舞いを学ぶことができました。音楽会の緊張もほぐれ、楽しい時間になりました。

午後は、美術館でガイドによる解説と、対話による作品鑑賞を体験しました。子どもたちは、ガイドの問いかけに対してそれぞれの解釈を語り、作品に描かれた物語を生み出していきます。岸田劉生展をはじめ、日本画や彫刻作品から、普段見ることのない本物の作品を通して、自分の力で作品を読み解く楽しさを学びました。

修学旅行は未知の体験ばかりで、子どもたちが全てを理解できたわけではありません。しかし、世界基準の美やよさに触れたことは、生涯の財産になることは間違いないでしょう。この体験が、これから出会う様々な文化を測る子どもたちの「ものさし」になることを願っています。

見守り隊への感謝と安全への誓い

12月17日、見守り隊の皆さんを迎えて、感謝の会を開催しました。毎日の見守りへの感謝

と、文部科学省表彰のお祝いを伝える会です。お礼の言葉と詩の朗読を送り、子どもたちが作った感謝状を一人一人に渡しました。子どもたちは、自分自身でも交通安全に気をつけることや、元気なあいさつで感謝を伝えることを確かめました。今後とも温かいお見守りをよろしく願いいたします。

